

音楽科における授業づくりのポイント

1 音楽科における主眼について

音楽科の主眼は、二つの観点から書きます。一つは、内容【知識及び技能】です。二つは、その内容を捉えるための活動や、着目する音楽を形づくっている要素【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

○主眼の作り方の例

主眼 1 □□感じ(表したいこと)を、■■(必要な技能)して、演奏する(歌う)ことができるようにする。

2 ~して表す活動を通して、~(表現の工夫)のよさについて話し合うことができるようにする。

【第2学年題材「音色とリズムをたのしもう(4/5時)」の主眼1の例】

(1) 解説書を読んで内容を焦点化する

- ①「A表現(2)ウ(イ)」(小学校学習指導要領 解説40ページ一部抜粋)から
音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
- ②[共通事項]音楽を形づくっている要素(小学校学習指導要領 解説135ページ一部抜粋)から
適切に選択したり関連付けたりして指導すること。
ア 音楽を特徴付けている要素→音色、リズム

【焦点化された主眼】
音色に気を付けて打楽器を演奏することができるようにする。

(2) 教科書の楽譜や資料を見たり、楽曲を聴いたりして内容を具体化する

- ①楽曲「森のたんけんたい」の打楽器で表す部分の曲想を捉える
 - ・どんな動物に会えるかわくわくしながら森へ向かっている探検隊
 - ・きつつきが家を作ったり、たぬきがお腹を叩いて話したり、妖精が魔法を使って遊んでいるような楽しい感じ
- ②着目する音楽を形づくっている要素を具体化する
 - ・音色…打楽器の違いによる様々な音色
 - ・リズム…打楽器を用いて

【具体化された主眼】
きつつきが家を作ったり、たぬきがお腹を叩いて話したり、妖精が魔法を使って遊んでいるような楽しい感じを、音色に気を付けて打楽器で演奏することができるようにする。

(3) 楽譜を見ながら楽曲を表現して内容を明確化する

- ①本時の表現を明確化する
楽曲後半部分の歌と打楽器のリズムが重なる部分を、歌詞や表したい感じにぴったり合う打楽器を選択し、音色に気を付けて表現する。
- ②音色のよさや面白さに着目するための鑑賞の視点を明確化する
歌詞や表したい感じに合う打楽器の音色であるかを、実際に歌と合わせて打楽器を演奏して確かめ、楽器の違いによる音色のよさや面白さに着目できるようにする。

【明確化された主眼】
きつつきが家を作る感じやたぬきがお腹を叩いて楽しく話す感じ、妖精が魔法を使って楽しむ感じを表すために、歌詞や表したい感じにぴったり合うように打楽器の音色に気を付けて演奏することができるようにする。

2 音楽科における題材指導計画について

音楽科の題材指導計画では、楽曲を聴いて曲想を感じ取って表現への思いや意図をもつ「つかむ段階」、表現への思いや意図に基づいて表現方法の見通しをもって表現をつくる「つくる段階」、思いや意図と照らし合わせながら表現を練り上げる「あらす段階」、思いや意図に合った表現をする喜びを味わう「味わう段階」といった四つの段階を大切にします。

段階	内容	具体例(第2学年題材「音色とリズムをたのしもう」)
つかむ	楽曲と出会い、音楽を形づくっている要素に気づき、表現への思いをもつ。	身の回りの音や打楽器の音色を聴いて様々な音色のよさや面白さを感じたり、「ゆかいな時計」「森のたんけんたい」を鑑賞したりして、打楽器を用いて表現していく意欲をもつ。
つくる	既習の表現を参考にしながら、表現方法について見通しをもつ。	表したい感じに合う打楽器の音色について交流し、表したい感じに合う表現についての見通しをもつ。
あらす	表したい感じに合わせて表現を工夫し、表したい感じと比較しながら表現する。	表したい感じに合わせて打楽器を選択し、歌詞や表したい感じと比較しながら打楽器の音色に気を付けて表現する。
味わう	練り上げた表現を鑑賞し、表したい感じを表現することができた喜びを味わう。	表れている感じを想像しながらそれぞれの表現を鑑賞し、打楽器の音色に気を付け、打楽器の音を合わせて表現することができた喜びを味わう。

3 音楽科における一単位時間の学習過程について（表現段階において）

音楽科の学習過程では、思いや意図を明確にし、表したい感じに合わせて表現の工夫を考えながら表現していく問題解決的な学習過程を大切にします。

○一単位時間の学習過程




段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	<p>1 前時までの表現を振り返り、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>～をして歌う（演奏する）と、□□な感じをもっと表すことができそう。</p> <p>（本時のめあて） □□な感じを～して表そう。</p>	<p>○□□の感じを～して表したいという思いをもつことができるように、学習者用端末に保存している前時までの表現の動画と楽譜を提示する。</p>
展開	<p>2 表したい感じが表われる表現の方法を話し合う。</p> <p>(1) 既習の工夫を振り返って、表現の見通しをもつ。</p> <p>表したい□□な感じに合わせて、～していくとよさそうだな。</p> <p>(2) ペアやグループで表したい□□な感じに合うように～することについて話し合い、表現する。</p> <p>□□な感じに合うように○○（楽器）を使って表したいな。</p> <p>(3) 全体でペアやグループの表現を聴き、感じたことを話し合う。</p> <p>【Aの部分】 【Bの部分】 【Cの部分】</p> <p>□□な感じがした。 ～すると□□な感じがする。 ○○よりも○○の方が□□な感じがするね。</p> <p>（本時のまとめ） ～すると、□□な感じをもっと表すことができる。</p>	<p>○見通しをもつことができるように、学習者用端末に保存しているこれまでの表現を聴く時間を設定する。</p> <p>○表したい感じに合う表現を見い出すことができるように録音したり聴き合ったりして表したい様子が表れているかを話し合う時間を設定する。</p> <p>○表したい感じを感じ取ることができるように、～することのよさと表れている感じといった視点で鑑賞したり、グループの表現を見直したりする場を設定する。</p>
終末	<p>3 □□な感じを～して友達と表現して、前時と本時の表現を比較し、本時学習を振り返る。</p> <p>～して歌う（演奏する）と□□な感じをもっと表すことができた。次は～して表現したい。</p>	<p>○次時も工夫して表現したいという意欲を高めることができるように、伴奏に合わせて表現し、～するというよさを話し合う場を設定する。</p>

4 音楽科における ICT の活用について

音楽科では、「表現方法を書き込んだ楽譜やノート」、「表現したものや表現の工夫」、「振り返り」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を以下の四つの機能を用いて活用します。

- 提示機能…楽譜や写真、絵などをテレビ画面に提示する。
- 保存機能…録音したり撮影したりした音や写真を、学習者用端末に溜めていく。
- 共有機能…自分や友達の楽譜やノートを、学習者用端末上で閲覧可能な状態にする。
- 編集機能…保存している楽譜に、表現方法を書き込む。

○ICT の活用の具体例

提示機能	保存機能	共有機能	編集機能
<p>これまでの表現方法が分かる楽譜や、楽曲のイメージにつながる写真や絵をテレビで視聴し、本時の表現への思いをもつことができるようにする。</p> 	<p>前時までの表現の録音を聴いたり、楽譜に書き込んだ表現方法を見返したりし、本時表現の見通しをもつことができるようにする。</p> 	<p>友達の表現や楽譜に書き込んだ表現方法のよさを自分の表現に取り入れることができるようにする。</p> 	<p>ロイロノートのテキストや音符ノートに表現方法を書き込んで表現を試し、表したい感じと照らし合わせながら表現することができるようにする。</p> 